

秋の山小屋酒場

平成17年10月1日(土)

13期 吉田 穂積 吉本 良治

15期 舟田 節子

byせっちゃん

◆春の山小屋酒場は中止になっています。昨秋毎週のように来襲した台風のために、県道倉谷～土清水線は7箇所、路肩崩壊に、路面埋没。大型重機が入り、通行止めとなっていたためです。

◆倉谷の主・山下忠さんが昨冬、脳梗塞で倒れました。雪の中、狩猟中の発作で、仲間の発見がもう少し遅かったら危なかったそうです。「リハビリやいうて、あんな所におっても」と本人の退院報告の電話で、これを知りました。幸い、しゃべる方も支障なく、通行止めの詳しい経緯も知らせていただきました。(小屋作業では何かとお世話になっておりますので、OB会の方からお見舞いを出しました。)

◆秋の酒場は直前取り消しもあり、3名の参加にとどまりました。「参加が少ない」以前に、「酒場がある」を知らせられもしない、(知ら

せる努力がなされていない)が、第一のネックなのでしょう。

ともあれ、課題は屋根のペンキ塗り。天候に大いに左右されてしまうところです。明日日曜は雨の予報、加えてこの人数。さて、どうする?の早々の協議により、今日土曜の日帰りで突貫作業と決まりました。さっそくシュラフ他、食材を抜き取り、デイバックバージョンに。

ゲートから奥は新しい路肩に、擁壁。さらには、落石の目立ち始めていたダムから奥も整備された跡がありました。したがって、第二の切れ込み付近まで轍があり、楽。そこから後も、多分山下さんの、「兼リハビリ作業」と思いますが、草刈りされた跡がありました。倉谷川の本流は、結局元の右岸側に戻ったようです。こうして半年毎に倉谷川を眺めてみると、川床があがり、蛇行して、また一気に本流が復活する過程がよく分かります。山里は廃れるのみですが…。

さて、小屋の方は、10日前には現役の小屋作業が入っていたこともあって、外も中も綺麗になっていました。



ここへ来る前、参加が3名と聞いた旦那からは「いつまでこだわって、くだらんことをやっ
とるんや」と嫌味を言われましたが…今、山人
は消え、あるいは高齢化し、各所で山道が消え
ていっています。百名山のような所はオーバ
ーユースになる一方で、マイナーな山は既に経済
効果もなく、いわば思い入れの次元でこだわ
りの数名により、やっと維持がなされています。
高三郎などは、補助金が出ているだけマシ、恵
まれている方です。それにした所で、小屋がな
くなったら、金欠現役でも、登山道整備作業入
りの二の足を踏むことでしょう。

実際私も、この先が読めません。ブームにな
った中高年登山も、高年登山化しつつありま
す。思いがけぬ懐豊かな層の出現にデラックス
化した北アの小屋に、いつまでお客が来るのか
？年金削減、介護保険のシビア化で困窮してい
く中高年層。それらの負担をかぶせられ、かつ
将来公金を当てにできない若年層も、もうお金
のかかるレジャーをやってはいられません。

そんな頃に、手近な山遊びが復活してくるの
か？

かつて、自然保護は「アカ」と言われました
。それが経済が減速しかかると、大逆転。優等
生的活動の解釈となり叙勲対象に。白峰・桑島
の化石館も角間に移築されて、金大の里山活動
の拠点となりました。こんなことが大学の研究
テーマになるのか？ですが、時流に乗らないと
、研究費が下りてこない。すなわち時流です。

このような時流に、山里であった倉谷の、そ
こにある山小屋は乗るのか？乗らないのか？何
しろダム（必ず行政の手が入る）から、1時間
強。ボートなら10分。意外と地の利があり、
歴史もあり、他の山域が持たないキャラクター
なのです。さらに経済減速したら、思わぬ脚光
を浴びる地になりはしないか？せっちゃんの夢
（妄想？）です。

まあ、そんなムツカシイことを毎度考えてい
るわけではありません。まして、投資もできま
せん。ただ、「ヤル」と労力を割いて下さる方



がいる限り、私は飯場のオバハンを務めるのが
スジです。そして、「ヤル」を決めるまでが、
多少難儀で、行ってしまえば、ダム湖の景色か
ら、倉谷の景色から、最後の急登を上った途
端「ああ、無事だった」の、安堵感。そして物
好きな仲間達と何ともしフレッシュできる時間
が流れていきます。

今回は、身軽な穂積オヤジが屋根に登り、屋
根用靴の準備のなかった吉本さんが、脚立に登
り、錆落とし・下塗り・本塗りを行いました。
減量したとはいえ、屋根に登れそうもない私は
、お昼の用意と掃除、そして小屋前に落ちてい
たオニグルミ拾いに精を出しました。

釣瓶落としの秋の陽と戦い、それでも成せば
成る…青光りする屋根を後にしたのは午後4時
10分。穂積さんが50肩であること、吉本さ
んが腰痛体操に励んでいること…感知できぬ作
業ぶりでした。そして私の採集したクルマは翌
週、11期加藤家での近畿OB会秋刀魚パーテ
ィーでの何よりのおつまみになったのでした。

— 完 —

野沢温泉スキー合宿05報告記

梅 典雅(19期)

●期 日：05年2月26日(土)～27日(日)＜前後泊数名＞

●参加者(計17名)

田村 昭夫(0)、柴田 勝之(8)・奥様、保田 敦(9)、青柳 健二(11)、上村 人史(11)

片田 寛(11)・道子嬢、小山 清(11)、芝田 真(11)、守内 成一(11)、森川 功(11)、

辰野 隆義(13)、奥名 正啓(15)、上馬 康生(15)、梅 典雅(19)・睦美(21)

はじめに

編集長の命により、何人かに原稿の依頼をしたのだが、体よく？断られ、結局、書く羽目になってしまった。その替わり、幹事長及び幹事長代理のメール掲載を了解していただいた。

雪の初日

金沢からの参加メンバーは、辰野さん、上馬さん、奥名さんに、ぼくとカミさんの5名。夜明け前、集合場所へ着いても雪は間断なく降り続いていた。こういう状況で高速道路を走るのは、不安が募るものだ。しかし、辰野さん運転のエスティマは快適そのもので、順調に宿の「リゾートハウスふるさと」に到着した。



部屋では、田村教祖はじめ3名ほどが、朝からの酒でできあがっていた。ぼくたちは、ゲレンデを知り尽くした辰野さんをリーダーに、集合場所のレストハウスへ向かい、昼食のあと滑り始めた。しかし、ときおり激しく降る雪の中、顔の周りは凍り付き、視界も効かず、うわさのスカイラインはおろか初級コースを滑るのも難

儀した。ところが、自称「中年暴走族」の11期諸氏は、かつ飛ばしていたようだ。

至福の夜

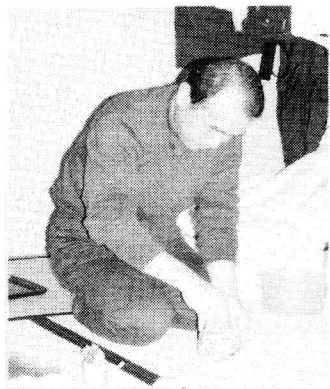
野沢温泉スキー場の魅力のひとつは、温泉街に点在する13の外湯で、ぼくも一番近くの「中尾の湯」に行った。素朴で熱い純生の温泉だったが、湯に浸かるのも順番待ちといった「芋の子洗い」状態であった。



「ふるさと」の食堂では、野沢菜たっぷりの食事の後、片田さんの娘さんのピアノリサイタルが催され、とてもリッチな気分に入る。それから、ピアノ伴奏で「隅田川」を歌い、「ふるさと」の亭主・従業員も加わって、「故郷」を合唱した。う～ん、パーフェクト！

部屋に戻ってからは、全国各地の銘酒、銘菓・名物が並ぶ。恒例となっている「お点前」は、昨年の舟田さん(15期)のような和服姿とはいかないが、森川さんと奥名さんが代わりを務められ、スキー合宿伝統の一服を味わうことができた。

それにしても、ぼくは、酒はもちろん、甘いものもいけるし、スキーもするが、酒を飲みながら饅頭を喰い、ゲレンデを滑りまくる諸先輩のバイタリティには、完全に脱帽であった。



二日目は雪のち晴れ、のち・・・

翌日は、温泉と酒でくつろぐという奥名さんに見送られ、4人でゲレンデに向かう。次第に晴れてきて、展望が効くスカイラインをはじめ、多彩なゲレンデをテレマークターンで舞うことができた。

さて、下山のコースを選ぶ段になって、辰野リーダーは（多分、ぼくらの実力をみて）長距離林間コースを薦められたが、ぼくは、やっと調子も出てきたので、パラダイスからユートピアへ下るコース（中級）を滑りたいと言った。

ところが、そのコースへの分岐に来て初めて、大会のため滑降禁止になっていることがわかった。しかし、いまさら登り返すこともできず、結局、上級のシュナイダーコースを滑らざるを得なくなった。50cmを超える新雪にスキーをとられて転びそうになったとき、すでにビンディングがはずれていたのだろう。次に滑ろうとした途端、片方のスキーを流してしまった。ストッパーは付いていたのだが、このビンディングは、靴と板が離れただけでは効かない仕組みで、流れ止めを付けていなかったのが失敗だった。みんなに探してもらったが、林の中の深雪に埋もれたのか、結局、板は見つからず、惨めにも片足で宿へ戻り、帰途につくことになった。

最後は、リーダーの言うとおりで、おとなしく林道コースを滑ればよかったという禍根を残してしまったが、楽しいスキー合宿であった。

みなさん、ありがとうございました。

<青柳さんのメール>

楽しいスキーが終わりました。

節チャンの心配りは、幹事長と辰野氏が引き受けて、スキー疲れを取るべく全参加者に緑深いビタミンCを提供してくれました。（中略）

26日の夜の宴は、最後を片田道子嬢がドビッシーのピアノソナタで盛り上げてくれました。



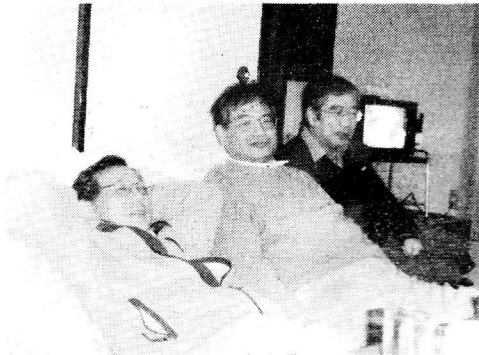
最後は宿のテーマソングの「ふるさと」を全員がピアノ付きで合唱しました。宿の西方さんたちも皆で拝聴され楽しんで頂けたようです。

さて、スキーの方は、3日間異なる天気と雪質の中、タツプリ楽しみました。25日は快晴、最高のカービングバーンで、保田大先生を先頭に小山氏、スキー一式を新調した守内氏と共に、快適滑降を存分に楽しみました。

26日は、一転して大雪。片田氏の測定では、一時間当たり5センチの降雪の中を、負けずに滑りました。昨日一日で満足した小山・守内両氏はキャンセル。当日の朝付いた森川・上村の同期と柴田夫妻が合流し新雪とコブコブ斜面の中で奮闘です。カービングターンが描けない悔



しさと自由にならないスキーがモドカシク、雪のなかで転ぶ楽しさをも再確認させてくれました。その中、金沢のドカ雪育ちの保田さんの強さが目立ちましたが、最後のスカイラインの滑降で、大転倒を目撃し、人間であることを確認できてホッとしたものです。



27日は、午前中は雪、午後から晴れのスキー日和。前日の疲れが残る保田さんがキャンセル。柴田夫妻と森川・上村氏を加えた強者5名で、ヤマザトゲレンデ中心に新雪のカービングターンを満喫。昼食後は、今シーズンから滑降可能となったブナ林の中でパウダーの感触を味わって大満足。最後はスカイラインの2連発の快適滑降で締めたのでした。前日の雪の中での苦労が実り、強いスキーに目覚めました。また、スカイラインの急斜面の中で、カービングショートターン習得を実感できたのも大収穫でした。スキーでは、なぜか金沢組とすれ違い、今回初参加の梅夫妻の滑りを拝見できなかったのが残念でした。彼らも、この野沢の雪質と快適斜面には満足された筈ですから、また来年に同走したいものです。



この3日間で、大きく成長した我が勇士を、加

藤名監督の手で記録に残せなかったのが、心残りです。3月の連休の志賀高原スキーに是非と参加されることを、森川幹事長ともども強く望むものです。（中略）

まずは、お礼とご報告まで。幹事長代理でした。

<森川さんのメール>

みなさん無事帰られたことと思います。

幹事長代理の続き 27日午後（追記）

幹事長代理がケーキセットをやめてまで、スキーに熱中する程のコンディション。

最後は柴田さんにバス停まで送ってもらってバスに間に合い無事帰れたことと思います。



27日の夜は一人静かに10時間程の睡眠をとって、幹事長の疲れを取り28日朝は掃除直後の湯船に半分しか貯まっていない新鮮な湯に浸かり朝一番でやまびこへ。

明るい太陽の下、日焼けを気にしながら、無風の中、柴田さんが言っていた『整備されたゲレンデで10番以内に滑るゲレンデ状況』で自分自身の風とスピードを楽しみました。スカイラインも同様に保田さんの・・・が信じれない程簡単で約5分で滑り降りました。

リフトもゴンドラもノンストップ。それでも疲れはなし。スキーは技術や道具や体力より、コンディションを痛感しました。

昼食は先日食べそびれたケーキセットのみ。

それでもあつという間に午前券を終了。最後は、戸狩温泉駅でラッセル車を見て飯山線の普通でノンビリと帰りました。

みなさん、また06年中尾の湯で会いましょう。

★野沢温泉スキー合宿06予告 ●●●「凍」「闘」でなく、「楽」でいこう!!

実施日：2006年 2月25日(土)～26日(日)

(前後いずれか1日延長して、2泊3日がお勧めです!!)

場 所：いつもの 野沢温泉スキー場&共同温泉浴場13湯

宿 泊：リゾートハウス ふるさと

長野県下高井郡野沢温泉村6556

電話 0269-85-2241

(宿泊代は、一泊2食付 約8000円)

幹事長：11期 森川 功 : 同代理 11期 青柳健二

2006スキーのモットーは、ズバリ『楽』

信州野沢の100%かけ流し温泉を、タププリ楽しもう!!

宿の名物料理と、OB会名物夜のワイガヤ会を楽しもう!!

抜群の雪質、多彩なゲレンデで、スキーを思う存分楽しもう!!

さらにオリンピックイヤーの、2006年特別メニューは、

2005年にヒマラヤ連峰の魅力をタププリ楽しんだ人の

『ヒマラヤトレッキング3連チャン報告会』

申し込み：2006年2月5日(日)までにEメール or 電話にて、下記の幹事長/同代理へ。

kenaoyagi@aol.com (青柳) 048-481-0275

isaom@bl.mmtr.or.jp (森川) 0594-22-0353

*和室3部屋を確保していますが、家族参加の場合は別室を確保しますのでその旨申し込み下さい。

*なお、野沢温泉スキー場・リゾートハウスふるさと・積雪・場所などの情報は、下記のHPへ。

<http://nozawaski.com>

<http://www.nozawa.com/furusato/oyado.htm>

★11期・長岡正利氏 講演!! ●●● 冬期の机上講習(中日登山教室)

演題：「山の高さとは」～ 地形図と、そこに表示される「山の標高」の考え方 ～

講師：長岡正利氏

期日：平成18年2月18日(土) 午前10時～12時

場所：金沢市香林坊2丁目中日ビル8階(参加費1500円)

講師プロフィール → 金沢大学大学院修了(地学)、ワングルOB(11期)。学生時代は白山の地質調査に取り組み、白山火山の地質図完成とその形成史を解明。その後は、仕事とあわせ地図を趣味にさまざまな著作活動。現在、国土環境(株)勤務。もと国土地理院地図部長。



2005年度 活動報告

ワングエル現役3回生 48期 伊藤謙一

4月；歩荷トレーニング（卯辰山）

5月；新入生トレーニング（医王山）、総会

6月；結団式

第一回トレーニング山行（獅子吼、口三方）

7月；第二回トレーニング山行（白山）

8月；夏合宿（南アルプス、中央アルプス、北海道）

9月；小屋作業（高三郎）

11月；雪上訓練（白山）

12月；冬合宿（荒島）

以下は予定

1月；追いコン

2(3)月；春合宿

4(3)月；1,2年山行

今年の新入生は1年生5人、2年生1人でした。

1回生6名、2回生7名、3回生5名、計18名で活動し、部の年間行事（上記）は3回生主体、P.W.は主に2回生主体で行いました。夏合宿のパーティ分けは以下のとおりです↓

※（回生）

北アルプスパーティ；浅妻(3)、本沢(3)、田淵(2)、鍛冶(2) 角江(2)、増田(2)、小島(1)

中央アルプスパーティ；伊藤(3)、長島(3)、長谷川(2)、志賀(2)、大和(1)、河原(1)、山本(1)

北海道パーティ；村田(3)、内田(2)、塩原(2)、横山(1)、中野(1)

では続いて、3回生の伊藤君に今年の夏合宿を通じて山への思いを語ってもらいます・・・

2005年度夏合宿中央アルプス

空木岳～南駒ヶ岳～宝剣岳～木曾駒ヶ岳を縦走して

今年の夏合宿で私はリーダーをやることになりました。リーダーをやると決まってからは、どこの山にしようか非常に悩みました。最終的に南アルプスか中央アルプスのどちらかに行こうと思ったのですが、南アルプスは1年の夏合宿で縦走した経験があったので、せっかくなら一度も行ったことのない中央アルプスに行ってみようということに決めました。中央アルプスは、北、南アルプスに比べると、規模が小さいので、金沢大学のワングエルの夏合宿ではあまり人気がない山？だったかもしれません。確かに私も中央アルプスに行くと決まって計画を立てるまでは、中央アルプスの中で知っていた山は空木岳くらいし

がありませんでした…。しかし！計画書を作成していく段階で、宝剣岳や木曽駒ヶ岳といった3000mに近い山々があること知って、だんだんと中央アルプスへの期待が高まっていきました。そして行程は菅ノ平バスセンター近くの林道終点から登って、空木岳～南駒ヶ岳～檜尾岳～宝剣岳～木曽駒ヶ岳～しらび平(ロープウェイ)に下りてくるコースを縦走することに決めました。この中央アルプスの縦走コースですが、あいにく夏合宿では全体的に好天に恵まれず、残念ながら景色を楽しむことがあまりできませんでした。空木岳、南駒ヶ岳での両方のピークでガスっていました…。しかし、実際晴れていたらどんな雄大な景色が見ることができただろう？という次に登る時の楽しみができました。中央アルプスは空木岳～木曽駒ヶ岳手前の中岳までは幕営が禁止されており、そのため、木曽駒ヶ岳頂上山荘以外では小屋泊まりをすることになりましたが、どの小屋もきれいで避難小屋とは思えないほど居心地がよく、そのおかげで、夏合宿を快適に進めることができました。空木岳、南駒ヶ岳を制覇した後は、檜尾岳までの行程が非常に辛かったのを覚えています。これでもかこれでもかというくらいニセピークがあり、何回もだまされてしまいました。まだまだ地図読みができていない証拠ですね…。檜尾岳を越えてからは極楽平～宝剣岳という行程ですが、この夏合宿の中で一番印象に残ったのがこの行程でもあります。極楽平は、一面が岩や草で覆われていて、全く何もありません。その名の通り『極楽』といった感じで、本当にあの世にいるような感覚がしました。またその日はガスっていて、登山道が向こう側に消えるように延びていたため、なおさらそんな雰囲気がでていました。極楽平を越えると前方にそびえていたのが宝剣岳です。宝剣岳ピークまでは、両手、両足をフル稼働しなければ登れないような岩場が続きました。垂直に近い岩場が何回も続き、上下左右に移動しなければいけませんでした。ここはパート・ワンデリング(またはサブザック)なら、アスレチック感覚で楽しめたと思いますが、如何せん、私達は縦走装備(メインザック)で登っていたため、あまり楽しむ余裕はありませんでした…。宝剣岳に次に来る時はパート・ワンデリングで来たいですね！宝剣岳を制覇すると最後は木曽駒ヶ岳です。ここはご来光を見るために朝早く登ったのですが、ガスっていて全くご来光と周りの景色が見ることができませんでした。残念…。このようにして、私達中央アルプスの行程は終了したのですが、やはり一番残念だったのは、天気にも恵まれず、1回生に山の雄大な景色を見せてやるができなかったことです。しかし、登山は自然を相手にするスポーツであり、そのため天候によって、自分達の思い通りにいかないことはたくさんあります。しかし、だからこそ、晴れてピークまで苦労してたどり着いた時に見る景色は格別のものがあると思います。この快感がまた山に登りたいという原動力になるのではないのでしょうか？私は来年4回生になるため、学校のほうも忙しくなり、部の活動に関わることは少なくなってくるとと思いますが、時間があつたらまた山に登っていきたいと思っています。

2005年11月好日

金大ワングル部3回生 伊藤謙一

東北 焼石岳の旅

焼石岳を目指す気分のいい木道

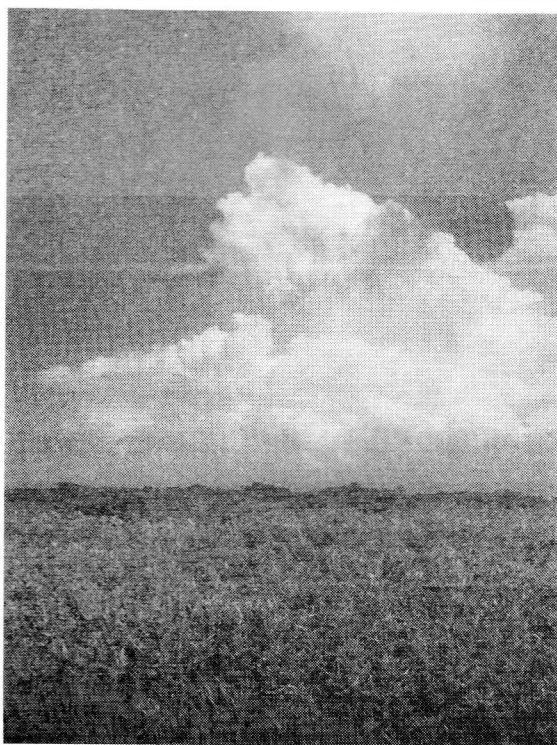


東北特有のひなびた湯治場・夏油温泉



頂上だあ！

最後の青空
おお！入道雲



リュウキンカ



次・やまざと'07 原稿大募集



来号『やまざと』の特集は、「食」を予定しています。



革命を起こした〇〇さんの△△料理
哀しきペミカン秘話
食には一過言あった××先輩 etc.etc.

あなたの心温まる原稿をお待ちしています。アクセスは事務局まで、いつでもOK！！